青本

"創世時代"

暦なし：この頃、世界が生まれた。<c-はle)-cと-ᒣℓeと-ᒣℓelに分かれた。-ᒣℓelはᑕO--ᓴaとl-ᑕc-に分かれた。２界間には-Vel-ᐱᑕc⌒が生まれた。-ᒣℓelからはVccℓが流れ、それは両者の道となる-Vel-ᐱᑕc⌒の中を通ってle)-cに蓄積した

le)-cにたまったVccℓはやがて大きくなり、-ᒣᑕeが生まれることになる

ここまでが<c-lである

他に、<c-lでは惑星ができ、太陽系もこの時できた

"アルテ時代"

暦なし：le)-cにたまったVccℓはやがて-ᒣᑕeになる

Vccℓをうけつづけた-ᒣᑕeは大きくなりすぎ、このままだと破裂してしまう

そこで-ᒣᑕeはelᑕ,⌒--lという男女の神にわかれた

elᑕ,⌒--lは相殺する力っをもっていて、互いのVccℓをバランスよく相殺していた

尚、-ᒣᑕeが生まれたのは<c-ができてすぐである

↓

アルテができるまでが<c-l

-ᒣᑕeの時代はelᑕ,⌒--lの分化から始まる

cᐱScᐱからみて分化は６５００万年程前である

elᑕ,⌒--lは一年に一回-ᑕ⊃l-⌒の⌒elVeᒣᑕで会った

しかし６３９３８９６４回目にサールが身篭る

そしてユーマが生まれ、エルトはサールを捨てる

サールが自殺し、エルトが自殺すると-ᒣ>cᐯ-１２神が生まれる

-ᒣ>cᐯ-は６人ずつにわかれ、エルト、サールの一族名の下に生きる。やがて神の交わりによって神が増えていく

神は自然や非自然の様々なものを支配した

一方、ユーマのせいでテームスが生まれる。これもcᐱScᐱから６４００万年程前である

また、ユーマはドゥルガとアルドゥを作り、ヴィーネとエスタを作る

アルドゥとエスタは２８人の子を生み、これが人類となっていく

-ᒣᑦe（この時代ではエルトとサール）は-lᑋ-ᑦに住み、-ᐱᒐ-lを好んだ

-ᒣᑦeはユーマの一族を追い出して居座った

ユーマの一族はᑋeᐯe-,ᑕ-ᐯc-,ᐸ-ᑉeᒣなどに移った

神はアルバで神の文化を作ったが、神は能力が高いので不便が少なく、文化レベルは低かった

一方、ユーマのせいでテームスが生まれ、悪魔を次々と生んだ

時のルシーラ、メルティアもこの時生まれた。やはりテームスとほぼ同時なので６４００万年前である

アルバで神は初めて暦を作った。メルティアにちなんでメルティア暦という

神がアルバに移り住んだ日を以って紀元とするのでおよそ６４００万年前である

尚、ユーマが生まれて、テームス、アルミヴァなどが生まれ、ヴァステになるまでを-ᒣᑦeの時代という

-ᒣᑦe

ᐸc-l｛？年　（

６４００万年前に分化　elᑦ～ᑕ--l

-ᒣᑦe｛６４００万年前（ᕿaa>-が生まれる。テームス、アルミヴァも

１００万年前（cᐱScᐱ

６５００万年しなないのに　６５００万年前　分化

６５００万年の殆どを-ᒣᑦe｛６４００万年（

ᐯ-ᑕᑦeは数万　６５００万年前｛　（１００万年前ユーマ、テームス（メルティア暦）

ᑯ-ᐯ-ᑕは数千しかない　｛１００万年　（

０年前｛ヴァステ～現代まで

"ヴァステ"メルティア１００万ごろ

神はアルカを使い、文字も作った。神は文献を残した
メルティア１００万年ごろにテームスがアルテと戦争をした。ここからヴァステになるので暦が２時代にくいこんでいる
ヴァステは１００万ごろに始まり、１００万ごろに終わった
アルミヴァが中心となって戦い、テームスを封印し、神が勝った
↓
-ᑊᑦeの間に神は北半球を殆ど回って国を作っていった
神はこの国の配置をくずさないようと決めた

"ラヴァス"―メルティア１０３万～１０４万ごろ

メルティア１００万ごろにラヴァスは終始した。期間は数千～１万とみられる
その後３万年程してから、神同士の対立が激化し、ラヴァスが起こった
ラヴァスは数百～千年程続き、引き分けになった
このラヴァス終了時でおよそ、cΛScΛから１万年程前になる

神が-lᑐ-ᑦを去った頃、ユーマの一族は-lᑐ-ᑦを目指して進んだ
-lᑐ-ᑦを被災させたくなかった神は先に辿りついた西の民∪c<eᑊに加担し、東の民>-leᑦを追い出そうとした
↓
もう次の時代だ

"-Zϒeμ"

今から１万年程前に神が去り、ᑐc<eμと>-leᑦが-lᑫ-ᑦへ向かった。神はᑐc<eμに加担し、-Zϒeμが起こった。ᑐc<eμは>-leᑦを追いやり、laᑦc-をとった

神は南半球に住んだことがなく、南の国へは加担しなかった

そこで、>-leᑦをᑫeVe-から追い出すことはできなかった

そればかりか東の力を強めている間に元々いた<-ϵeμを取られてしまった

神はᑐc<eμに加担し、文化を伝えた。人と神の文化が混ざった

神は人にも使えるように新しい暦を作った。ユーマ暦である

ユーマ暦はおよそメルティア１００数万年に等しい

尚、神はᑐc<eμに-μᑫ-を伝えた

ユーマ元年：ᑐc<eμがアルバに入る。指導者ᑐc<eμ-Λが神の予言を受け、神の文化等を得る

ユーマ２０００年ごろ：ᑐc<eμは-lᑫ-ᑦをほぼ占拠。>-leᑦはᑫeVe-メインだったがᑑ-Vc-にまで昇りつめた

ユーマ３０００年ごろ（-Zϒeμ開戦）：>-leᑦがcΛᑑ--lに入ってくる。これを皮切りにᑐc<eμとの交戦-Zϒeμが始まる

ユーマ３５００年ごろ（>-leᑦがcΛᑑ--lから撤退）：ᑐc<eμは神の助力と神の魔法体系-μᑦを使った。>-leᑦ独自の-Zeμを使って戦った。だがᑐc<eμが勝ち、>-leᑦを追い出した

時の指導者は未だᑐc<eμ-Λで、>-leᑦ側は>-leᑦcᑑのままであった

ユーマ４０００年ごろ：ᑐc<eμ,ᑑ-Vc-に侵入。ᑑ-Vc-、とりわけlaᑦc-で交戦激化

神の土地を荒したとして神が怒り、善戦していた>-leᑦの前に現われ、軍を壊滅させる

laᑦc-を失った>-leᑦは南下する

ユーマ４５００年ごろ：ᑐc<eμはᑫeVe-奪取の為にᑑ-Vc-に力を入れる。しかし、南半球に興味を示さない神は加担せずᑫeVe-での戦いでᑐc<eμは大敗してᑑ-Vc-に去る

ユーマ５０００年ごろ：>-leᑕは-ℓeΛᑕɔを本拠地にし、<-ϵeᑊに攻め入った。手薄だった<-ϵeᑊは弱く、南方をあっさり取られてしまう。南ファベルを足がかりに>-leᑕは北上し、神の土地である北側をも攻める。この部所に最大の力を入れていた>-leᑕは強く神と⊔c<eᑊの軍を潰し<-ϵeᑊを奪った。だが特に北側、神の土地の全てをつぶすことはなくできず、<-ϵeᑊ北側には⊔c<eᑊと>-leᑕの領土が混在し、文化も混ざった
一方、ᑐeVe-と⌒-Vc-は互いにしっかり領域が分けられていたため、まざることはなかった

こうして、５０００年ごろに-Zϒeᑊは終わった
⌒-Vc-，ᑐeVe-の守りは堅く、<-ϵeᑊ，-Λ⊔-lの守りも堅い
両者はこれ以上攻められなくなった。膠着である
そこで⊔c<eᑊ-Λが>-leᑕc⌒を混在地である<-ϵeᑊ北側に呼び、決闘をした。しかし共倒れして両者は指導者を失った。そして、-Zϒeᑊは終了した

５０００年ごろに-Zϒeᑊが終わると両者は北南に分かれた
そして互いに冷戦を抑えた
その状態が長く続いた

">eᑊᑕeΛ-"

当時の社会はどうなっていたか
人はどんどん力を失い、弱体化した
人が作り出せる、-le<は神の好物なので人はそれと交換で神の力を得た。当然-le<を大量に出せる者が力を持つようになった
５０００年ごろは⊔c<eᑊ-Λが各国においた王が支配していた

ユーマ６０００年ごろ：王が土地を支配し、民は王に軽く管理されるに過ぎなかった
年貢も特になく、民は土地を耕して食料を得た
手の器用なものは建築などを行った。これらは-Zϒeᑊのとき築城などをしていた子孫である
魔法職人、建築職、召喚職など、特技のある者は自分の仕事をし、他は土地を耕した

どの土地も肥えていて、大抵食料には困らなかった

ユーマ７０００年ごろ：人が増えすぎ、土地がやせ、食料に困った
召喚士は神の力を得て、ｸ-ﾒ^eなどに祈り、飢えを救った。こうしたことから召喚士の権威が増し、力を増やした

ユーマ８０００年ごろ：召喚士の力が王をしのぐようになり、王を倒して召喚士の新王となった
この時代、王は召喚士がとってかわるようになった
召喚士-ﾒ^eﾊ-を中心とした国が出来上がる。人が増えた為、国の支配も強くなり、国の意識が芽生えた。それによって国同士のいがみあいが増えた

またアルテナはサール派とエルト派にわかれた
両者は対立を始めた。始めは弱い対立で、国同士の争いの方が上だったが、次第にどの国のよりもエルトかサールかの方が重要になった
こうして、ｼc<eﾒはelｸ,ｿ--lの-ﾒ^eﾊ-はわかれて争うようになった
完全に片側よりな国やある程度かたよっている国や、バランスの取れた国など様々だった
そして、国を超えてアルテナは２派に分かれて争いを起こした

こうしてユーマ８０００年程にカコが始まった
カコは１００年程続くことになる
そしてこのカコの始まりを以って>eﾒ^eﾊ-の時代は完全に終わる

"ｸ-ｸｺ"

ユーマ８０００年ごろに始まり、１００年程で終わる。前、中、後期にわかれる
初期は５０年程である
互いに強力な魔法を開発して神の力を使って応酬するという方法がとられた
テロ的な戦いが多く、魔法の強化がされた

魔法のバリエーションも増え、-ᒋᑦは全盛を抑えた
この時でてきたのはアルバの北側にある-lᑐc-に現われた１１人の魔将で、彼らが-ᒋᑦを大成した。人の力で
なぜ召喚に力を入れなかったというと、召喚士が少ないことと、神が毎回協力してくれるわけではないことと、神がエルト、サールにわかれて戦うとラヴァスを再発すると考え、できるだけ嫌ったためである。敵に召喚は王やその回りの数人程度しか行えない最終手段だった。そこで-ᒋᑦに力が入れられた
始めは-ᒋᑦの強化が行われたが、徐々に魔法をはねかえすという手段がとられるようになった。これはcᑕcᒋcaᑐという魔法で、同名の男が作った
-lᑐc-もこれには閉口した。そこではねかえせないレベルにまで魔力をあげるようにしていった。これがʔ-ʔɔ前期である
↓
-lᑐc-は中立でそれだけで魔法国家を-ᒋᓀ-内に作っていた
↓
-lᑐc-という独立国家だった

カコ中期

ユーマ８０５０年ごろ；-ᒋᓀ-Z-ᒋᓚには当時２人の王がいた
北王にはドゥルガの王アンダントがいて、南王にはヴィーネの王イクスタンがいた。両者は互いに自分が王だと言い、国を支配した
民はしたがって２重に支配された。魔力の少ない民は住んでいる所で自動的にどちらの軍勢につくか決められてしまった。力あるものは自分の派閥の側に移ったら、戦ったり、逃げられずに死んだりした

アンダントの息子のイーファとイクスタンの娘のルーキーテは互いを愛すようになり隠れて息子のメテを作った。２人の幸せの為に彼らは停戦和平を望む
しかし、異母兄弟のハーネとウロは反対する。そこで、イーファはハーネを暗殺する。しかし、ルーキーテはウロの暗殺に失敗して、殺される。イーファは嘆いて殉死し、メテが残る

事を知ったアンダントはイクスタンに攻め入り、共倒れする
するとヴィーネ側はウロが即位する。ドゥルガは小さいメテが即位する
ウロはすぐさまメテに攻め入った。ところがウロは幼いメテの力に押され撤退する
ここまでが中期である。中期は２０～３０年ほど続いた

カコ後期

ユーマ８０７０～８０８０程から８１００ごろまで
メテが成長するとウロを倒す
ウロの残党はヴィーネ側の多いメティオに逃れる
そこで１４才の少女ソーンを頂点とする組織を作った

一方このころ、テームスの封印がとけかけていた為、メテ及びその側近は封印を強化した。
そのせいで力を失っていたメテ。そこにソーンはつけこみメテを倒す
この時ソーン１５才
メテを失った残党はメテの側近だった英雄アルシェを新たに頂点とした組織を作った。アルシェは新王に即位した
そしてアルシェはそれにアルシェという名を付け、使徒を結成した
これが第一期第一代アルシェである
アルシェは使徒イムルの考案した冬至を正月とする暦を作り、アルシェ設立を祝って新暦の紀元とした
ユーマ８０８０年ごろがイムル元年にあたる
アルシェはアルバを中心に力をつけた
ソーンはメティオを中心に力をつけた
そしてアルシェはメティオに攻め入り、ソーンを潰していく。しかし、アルシェ本人はメティオでソーンと戦い、破れて死ぬ
そしてソーンはアルバに攻め入り、ドゥルガを追いやって支配し、アルバとメティオの王を兼任した
ソーンはメティオで暮らしたが、アルシェの残党からアルシェの恋人だった都市の離れた少女リディア（１２才）をソーンの元へ送った

女色だったソーン（女性）はリディアを可愛がり、手元においた
そしてリディアは１４才のとき、ナイフでソーンを暗殺
ソーンを失ったメティオはゆれた。すぐさまリディアは殺されたがアルシェの残党はその期を逃さず、メティオに攻め入り、王都を陥落、そこに、リディアをたたえて-μclc-を建国しメティオの内部にくいこんだ国を建てる
アルシェの残党の別働隊はアルバに攻め入り、ソーンのいない王都を落とし、アルバを占拠した。占拠したのはアルシェの弟のアルバで、アルバはここで王制を再び開いた
だがアルバにはヴィーネも多い。そこでアルバは政治の機関にヴィーネもいれ、カコを終結させた。というか長く続いて疲弊した中でも戦いを避けたいと思っていた為、アルバ王はヴィーネを取り入れてカコを終わらせた。こうしてカコはイムル２０年ごろに終結した
アリディアでも争いを避ける為にメティオとの争いを避けた。こうしてメティオの中の小国としてアリディアは残った。一方、魔道国家アルシアはカコの終結を条件にアルバとの併合をすると公言していた為、アルバへ併合された

"セルメル"

カコが終わり、エルト、サール派、ドゥルガ、ヴィーネの争いは消えた。そして徐々に国同士の違いが意識されるようになっていった

イムル２０年ごろにカコが終わり、そこからセルメルが始まる

アルバではアルバ王を中心とする王制が敷かれていた

代々王を継承するシステムだった

王を中心とする政治で、その下に様々な国の機関があった

ᒍel>elの政治機構

王（全権）

|

王補佐（副全権）

|

外交	財政	事務		開発	召喚	軍部⇒-ﾔΛɔΛ（６つの省の事）
外務	大蔵等	宮内庁		国土交	平安の	軍
貿易等	税年貢	立法 }	但し提案	交通省	神祇官	警察等
	徴収等	行政 }	のみで王	建設等	のような者	
		司法全て}	が認可し			
		法務	ないと法			
			にならない			
		↑				

-ﾔΛɔΛの下位の庁がlcZΛɔ

特に事務のlcZΛɔは大変

王は強い力を持ち、引継制
王以下は全て試験制

アルバ１世の時に、初めて統一貨幣が作られた。貨幣は-Zɣeᒐのころから小規模で作られたが、貨幣というより宝石や貴金属などと物との物々交換に近かった
アルバはɣclという統一貨幣を作り、世界に広めた
貿易も全てこれで行った。他国家は対抗して自分で貨幣を作ったり、それまであった貨幣を残そうとした。この結果、外貨ができ、外為がうまれて貿易が複雑になり、外務省が困った。そのときアルバの召喚省の長官だった>cᒐɣclが神を呼び出し、貨幣を統一したいと述べた。すると神はミルギルに応じ、世界中の国の召喚省を通して外務省にギルの認定をさせた。ミルギルは財政省と協力して、ギル、ソルトという２段階の貨幣システムを作った
国は税を金と作物と家畜で払うように定めた。尚、職人は金のみの税をかけた

セルメルのときは召喚省を通して常に神から政治の助言を受けた。神は戦争を禁じ、領土を変えることを禁じた。また、人工の数を制限し、飢えを起こさないように気を気張らせた。飢えが起こると国が荒れ、争いが起こるからである。それでも飢饉のときは)-ᒐ(eや(0eΛが人々を助けた

神と人とのつながりは主に召喚省だけだった為、民間人には神を信じるものと、作り話といって疑うものがいた
le(cJとVeleJである。また、テームスを敬う(e(c-や、アルマストの前進のVc(cJが現われた

太平の世だった為、技術はどんどん発達した
そのせいで逆に人はどんどん弱くなっていった

神が目の前から消えたことにより、VeleJを中心に自分勝手な神を想像。創造して宗教を作るものがでてきた。h-ᒐV-である。アルバのみならず全世界がこれをつぶしたが、一部は生き残った。それに神が怒り、一人残らず殺した。それを教訓とし、諸国は完全に宗教を禁じた

時間が経ち、人間が弱くなって国々の行き来も難しくなったため、言語が土地ごとに変化した。アルカとはかけ離れた言語にかわるものもあった

この頃の王は強くて長命。しかし徐々に力を失っていく

王は子を一人しかもてなかった。後継者争いを防ぐ為である。また、子でなければ王になれなった。これも暗殺を防ぐためで、全て神の意思だった

イムル２０：カコ終結。セルメル開始。王政が整う。医者や水道など社会設備も整う

イムル５０：ミルギルによりギル、ソルトができる

イムル１００：ギル、ソルトが神に助力で統一

イムル３００：アルバ１世志望。世の中が若干荒れてVeleJが終末思惑を唱える
アルバ２世が即位してVeleJを抑えるが、反発される

イムル３５０：VeleJは次々に宗教を作り出した。アルバ２世は怒りh-ᴶV-を排他しはじめる

イムル４００：VeleJの勢いがかえって増す。アルバ２世による掃討作戦が始まる

イムル５００：VeleJの一部が残り、テロが相次いで社会が混乱する。その期に、ラシェットの２期が起こり、アルシェとソーンが再対立する

イムル５５０：神が怒り、h-ᴶV-を滅ぼした。召喚省は多大なle<を神に差し出したとされる。神はラシェットはh-ᴶV-でないのでつぶさなかった

イムル６００：２期のルシーラはアルシェがeΛℓe>cl（男）。ソーンがʔleᑦ-ᑦcJ（女）。どちらも長命。しかし、当時の召喚省長官がソーンの使徒だった為eΛℓe>clに毒を盛って暗殺
国、アルバ２世はそれを知りつつもカコの再来を恐れてなかったことにし、この世を寿命

で去る。同時にアルバ３世即位

イムル６００～１０００：長命な３世の下で大平の全盛。技術も増し、農作物の収穫も増え、神が許す人口も増えた

イムル１０００：アルバ３世死亡。４世の即位。大平すぎて、人も王も力を失っていった

イムル１２００：アルバ４世死亡（寿命が短くなり始めてる）
社会が混乱。５世が即位する。４世が今までより早く死んだことで、王の力の弱さを感じだす。社会経済が安定したこともあり、ラシェット３期が起こる
アルシェとソーンは経済的に対立し始めた。ルシーラはプルフェ（性別不詳）とハイジング（性別不詳）

イムル１３００：アルバ５世死亡。６世即位。プルフェ、ハイジングも死亡。２代は同名を世襲した。ルシーラとなった

イムル１３５０：６世死亡、７世即位

イムル１４００：７世即位、８世即位

イムル１４５０：３期６代のとき、アルシェが経済的に自然消滅。ソーンはこのころ強い対立意識を失っていた。結局、３期は争いもなく注目をあびなかった。また、このころ８世死亡。９世即位

イムル１５００：４期勃発。９世死亡。１０世即位

"リディア"

イムル１５００年に４期が起こったことによってリディアは幕をあける
人類は魔法を失っていて、王も力があまりなかった。魔法を使えるのはほんの一握りであった。しかもその存在は明るみに出ていなく、政府高官の地位を黙って占拠していた。レジスタレスの発生を防ぐ為にもはや試験は形骸的で魔導師や力のあるものが交換にかげながら選ばれた

このころになると王の力が弱くなり、支配力が弱まった。すると民は自分勝手に子供を作るようになり、決められた仕事も休んだりした。税の徴収も減った。この傾向は１４００年ごろから起こっていて、アルシェ滅亡の一要因にもなった
人は次第に貧困になり、貧富の差がでてきた
野党が増え、犯罪も増えた
貧富の差が生まれて、人は余裕がなくなり、まとまってより小さな集団で生きるようになり、家族が重視されるようになった。そこで初めて個人的なアトラスには珍しく、名字という概念が生まれた。同じ家、一族に属す者を表わすものである
１４００～１５００年、とりわけ１５００年ほどを皮切りに人は名字を持つようになった
↑
また制アルカがなかった為、名字は古アルカが殆どで、後から名字を持ったり、変えたりしたものに制アルカが少しある程度。今後の名前はむしろ制アルカが多く、古アルカはむしろ少なかった。しかしlecㄅ以降は古アルカの古さがかっこよく映ったため、古アルカの名も少し増えた
↑
つまり傾向として、名字＝古　名＝制というのがあった

４期の１代はくelcノ（女）,-ﾉ(-ノ（男）がルシーラだった
元々、彼らは共に預言者で、テームスの復活を予言した
共に幼馴染だったが対立する軍勢をつけていった。そしてやがていがみあうようになり、ついに１５００年に共にドゥルガとヴィーネを名乗ってラシェット４期を始めたというわけである

イムル１５３８：２代に以降。アルシェはΛ-ᑊᖘe ᖘᑊ-ΛᑊΛ，ソーンはᑊeᑊᑊc- >eᑊeがルシーラ

イムル１５６５：アノ・メテ誕生。同日３代ルシーラの就任

イムル１５６９：リーザ・ルティア誕生

イムル１５７０：アルバ１０世死亡。１１世即位

イムル１５７９：リーザ、３代ルシーラに就任┃

イムル１５８１：クミール・メテ誕生　　┃━３代の抗争及び、抗争の停戦。テーム

イムル１５８４：リディア・ルティア誕生　　┃スの封印の補強等がこの間に起こった

イムル１５９１：セレン・アルバザード、ᓴa>-Λ-からleᑐ-cに来訪。リディアと知り合いリーザに見初められて４代ルシーラとなる

イムル１５９８：クミールがアルシェから離反。４代のルシーラとなる。アディア交戦。テームスの復活

イムル１６００：アルシェ・ソーンに和平のきざし。年末ごろにセレンがあるかの案を一人でやるといいだし、神とソーンを納得させる

和平が次第に確固に。テームスと共闘せねばという目標の元に固まっていく。次第に神をまきこんで戦うようになり、年末に-ᑊᖘc-が開戦され始める

イムル１６０１：アシェットが成立し、文化や言語が見直され、神を通して世界と人と神が一体化してまとまった。そして-ᓴeᑊは共闘してテームスを倒した

アシェットは暦を作り、使徒メルの誕生日を紀元とするものにした、メル暦であり、冬至を元年とするイムル暦より少し早かった

１５８８年がメル暦元年にあたる。アルディア終結はメル１２年にあたる

アシェットの使徒は大抵王族と関係があり、その為強い力を持っていた

多くはアルディアの[-ᑊᑐlcᑊ]、国をよく統治した

"Λ-ℓc-"

↑→イグレスタ共産圏

１２～５０～～～１００～１５０～２００

（前期）　（中期）　↓　（　後　　期　）

↓　　‖

アデュの報い　植民地時代

メル１２年、アルディアの終結からシオンまでの安定～争乱に至る激動のナディアという

この頃に、神のアルテがうまれ、そこから相反するテームスが新たにうまれた

エルト・サールは和解し、一つの神の一族にまとまった

その一族は-ᗰᔕ-といい、これ以降-ᗰᑕeとは言わなくなった。この時代まで-ᗰᑕeというと、ᒍ-ᑕと違って、総合的な呼び方であった

ᒍ-ᑕはelᑕかᒍ--lのどちらかで、-ℓc-のようなものであった

一方、-ᗰᑕeはelᑕ＋ᒍ--lの混合だった。ところが、-ᗰᔕ-ができたことにより、また、-ᗰᑕeが唯一神として復活したことにより、-ᗰᑕeという唯一神の方を指すようになった

Λ-ℓc-の時代は大平で、アシェットはここで死んだ

メル５０年：アシェットのランティスがメル４００年に再来するといって、転生を予定して一斉に死ぬ

アルバ１１世も死に、１２世が即位

この後、大平に加え、人が完全に弱体化して魔法を失ったことにより、急速に魔法にかわるものとして機械と科学を発達させる機運が発生。これまですでにこのことを予感していたリュウ・ピネナなどの使徒によって科学の体系は既に作られていたが、それが促進されていった

こうして、Λ-ℓc-は激動の発達の時代を迎える

飛べなくなったことにより貿易のための船が強化され、メル１００年ごろにはアルバで産業革命が起こった。このころ、王はただの人になっており、高官も魔力を失い、召喚省は

有名無実になっていた。魔法を失ったので切れ味の良い剣が盛んになったが、火薬から銃が考案され、すぐに剣は消えていった
人は王の教えに背き、王は軍に力を入れた
人は増え、貧富の差が拡がった
また、産業革命によって、国が民を支配する形から雇用者が労働者を使用する立場に変わった。こうして貧富の差が生まれた。したがって、身分社会へ移行していき、経済は資本主義へと移行していった。その中でも、アルバは強力な力を蓄えていった

メル１００年：アルバ１２世死亡。１３世即位
１３世は強国アルバを利用し、他国へ攻め入り、領土を広げて、利益を生み、輸入分を安く手に入れようとした。強国の侵略を受けたのはケートイアのアデュである。ところが、アデュをつぶして、アルバの領域にするとした瞬間、神が現れ、アルバ１３世とその軍を一瞬で壊滅させた。神の意思に背いたからである
これが「アデュの報い」という出来事で、メル１００年に起こった
同時に幼い１４世が即位し、このことを知った諸国は軍事費を治安や開発事業にわりあてた

メル１００年以降、人は神の怒りにふれないように南半球に攻め入り、そこの資源をむさぼるようになった
航海技術の発達により、くｰϵeᴶ,ʔeⱴe-,ｰℓeΛ(ɔなどへ、強国であるアルバ、ルティア、メティオが入っていった
地理的にくｰϵeᴶはアルバが、ʔeⱴe-はルテイアが、ｰℓeΛ(ɔはメティオが植民化して支配して行った。これによって、３国は更に強国になっていった
３国は南半球に軍事費を使って、植民地の奪い合いを始めた。これによって更に技術は進歩。リュウがかつて考案していたコンピュータが生まれた。その前に輸送目的で各地には鉄道が敷かれ、武器が開発され、高度な戦闘用爆弾などが開発された。その後にコンピュータがでてきて、計算を行うようになった。通信機器も発達し、電線も生まれ、電話も生まれる。ラジオやテレビ（まだ原型的）が開発され、軍部を通して徐々に民間にも広まっていった。

メル１５０年には南半球の植民地化はほぼ終わり、かつての>-leᑦの民は殆ど追いやられ、∪c<eᒣと混ざっていった。植民化を固めた為に強国同士の守りが堅くなり、膠着状態となって植民地の奪い合いは冷戦に到達した

一方、この頃、軍部に力を使いすぎた為に経済が悪化。労働者は貧窮を極めた。そこでレジスタンスが結成。３期のソーンの末裔を名乗る男のcϑᒣeᑐが頭となり、独自の経済理念である共産主義（社会主義）を唱える。cϑᒣeᑐはアルバの人間だったが、これにメティオ、ルティアの労働者も賛同した。そして、cϑᒣeᑐはcϑᒣeᑐᑦ-というレジスタンスを結成。しかし国の弾圧を受ける

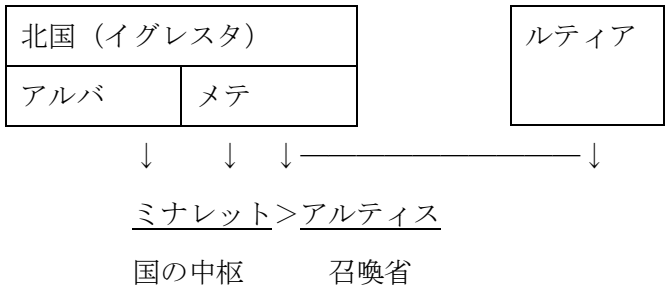
メル１５０にはアルバ１４世が死亡し、１５世が即位する。１５世はイグレスタを弾圧し、追いやる。イグレスタは北東へ逃れ、主にcΛᑐ--l地方で発達。やがて政府機関にまで入り込んで共産圏の国を作った

メル２００年には冷戦が続いていたが、互いに軍縮をしており、徐々に軍事費は減っていった。強国は他国におされないように北南どちらの内政にも力を入れるようにした
一方、イグレスタ共産圏は既に人間の堕落によってほころびを見せ始めていた
このころアルバ１５世が死亡し、１６世が即位した。１６世が即位した頃には経済も上向きになっていたが、政府高官が試験制なのに世襲を実際にしているという政治腐敗が目立つようになり、民主主義の機運が目立つ。>c∧-lc∽は若い女で、民主主義を呼びかけた、２０１年の話である。この機運が高まり>c∧-lc∽には多くの人間、特に労働者が賛同した。国はそれをとり下げたが、あまりに勢力が大きかった。労働者は一斉にストライキを起こし、社会が停止した。根競べの結果、国側が折れ、選挙制を導入した。既に>c∧-lc∽のレジスタンスである>c∧-le∩のテロによってかなりの高官がことごとく暗殺された後の話である
こうして>c∧-lc∽は選挙を認めさせ、自身出馬して圧倒的な支持を得た。高官の多くは>c∧-le∩の出身者であった。>c∧-le∩はしかし大きくなりすぎていたので次第に利害が分かれ、いくちかの派閥、つまり政党に分かれていった
アルバでは>c∧-le∩から-l>c∧-が独立し、更に->c∧-lも独立した。>c∧-le∩はleV-le∧に名を変えたが、その後-l-cVがそこから独立した。こうして４頭政治が展開された
しかしあくまで王を廃すことはなく、実質には選挙で選ばれた王補佐が実験を握った。２５０年ごろの話である

シオン：一方、２００年にはシオンがアルナで生まれ、退廃した世を嘆き、歴史にあるような神の加護をえようと述べて回った（実際にやったのは親）
２０５年に父ʔ-∧∪c∽∧と母-S∧eは神の加護を望み、召喚省へ志願した。ところが時代は>c∧-lc∽の頃で、選挙によってのみ決められる気運にかたむきかけていて>c∧-lc∽に妨害されてしまう。その為、>c∧-lc∽に対抗する為に親は対抗勢力を築いて回った。その際に歴史上の神の名を挙げて救世の名目で世界を回った。これを危険分子と見た国はこの新興団体もできつつある>c∧-le∩と同じく排他しようとした
>c∧-le∩は２００年過ぎには更に大きくなり、２３０年にはストライキを起こして国に選挙を認めさせた
一方、カンシオンは危険分子とみなされ、国に殺された。アジュネは逃げた。ミナリスも

暗殺されたが暗殺者を返り討ちにした。２１０年のときである。母アジュネはシオンを連れ、世界を回って勢力を伸ばした。やはりこちらも労働者階級が多く味方についた
旅路でシオンが神の子を妊娠。１４歳で妊娠し、>-ᗯeが１５歳でうまれると神の子を産んだということでアジュネはシオンを教祖とした。そしてアジュネは２１５年、シオンを教祖とするアルティス教を設立
ミナレットと同じくらいの速度で成長するようになった。しかし２３０年のストライキと国の認可により選挙が決定するとミナレットは更に大きくなり、アルティスをはるかに抜く勢いになった。結局アルティスはミナレットに負け、選挙という相手の土俵で戦った。だがミナレットに邪魔をされ、議席を殆ど得ることができなかった。だがアルティスはカンシオンの悲願であった召喚省への出馬に力を入れた。また、ミナレットは形骸化した召喚省には大きな興味を示さなかった為、どうにかアルティスは召喚省を統べることが出来た。２３０年のことである
アルティスもミナレットも世界各国にいきわたり、どの国も民主主義を取るようになった。但しイグレスタはこれに従わなかった為、北方への布教は遅れることとなった。メディアのおかげで布教は早く、２５０年ごろにはこうなっていた

＜メル２５０年ごろ＞



アルティスの敗因：ミナレットが民主主義という共通の目標を揚げる中でアルティスは宗派の違いが生まれ、内部の結束力が弱かった。その為に負けたと考えられる

２３０年、シオンは娘のマルテの恋人のアフレインが-ᗰ乚-を敬わずに-ᗰ>-を敬うことを指摘。これを受け、マルテとアフレインは破局。同時にアフレインはアルマスト派を立てるまた、シオンはアジュネの兄、アジノンがテームスを敬うことも指摘。アジノンはそれを受け-ᗰ(c丿から独立し、V-ᗰ(e丿を立てる。こうして２３０年の粛清を行い、体内毒素を吐き出した-ᗰ(c丿は自身を-ᗰ乚c>Λ派と名乗るようになる。と、このような内部分裂の為にアルテ

ィスは弱くなっていった。一度目の選挙はミナレットの独占だったが二度目こそと思っていたアルティスだったが、この分裂にいって力を失い、また召喚省以外の議席をちれなかった

＜２５０年、アルバ１６世が死亡。１７世が即位。シオンも死亡。マルテが後を継ぐ＞

分裂によって力が弱まったものの、アルティス自身はどんどん勢力を拡げていった。これをよしとしないミナレットはアルティスの弾圧を開始。召喚省からも廃そうとした。ミナレットは神の存在を否定し、アルティスを「宗教」と位置付け、宗教禁止の名目の元に弾圧しはじめた。アルティスはアジュネが召喚省長官だったが、追われて殺される。シオンはマルテを連れて逃亡する
シオンはアルカンスへ逃がれたが、ミナレットの攻撃を受ける。ところがシオンやマルテはこの時代には珍しく魔力を持った人間で、軍をつぶしてしまった。するとミナリスが直々にでてきた。実はミナリスもまた魔導師であった
結局２人は戦い、アルカンスで共倒れした。２５０年のことである。ミナレットは指導者を失って混乱したが、ミナリスの息子のファウスが後を継いだ。アルティスはマルテが後を継ぎ、最後にマルテはセルヴァートまで逃げた。事実上の敗北撤退である
２５０年、ファウスはアルカンスからマルテを追い出す
マルテはケートイアのアデュへ逃げる。しかしアデュも襲われ、陥落し、イネアートへ北上する。しかしここはイグレスタの領土であった為、民や国から迫害を受ける。その中でマルテは北方の地に布教していく
ミナレットはそんなアルティス教をつぶしにかかった。しかしミナレットに敵対するイグレスタはそれを見て今度はアルティスを擁護した。するとイグレスタの元でアルティスは大きくなり、アルバ内に残ったヴァルテらはミナレットに対してテロ活動を行った。２５５年のことである
しかし２６０年、アルバのミナレットは大軍を北上。ケートイアをつぶし、北上してイネアートのアルティスとイグレスタをつぶした
マルテはとうとうセルヴァートへ逃げ、大敗が決まった
２６０年のアデュ大虐殺にではヴァルテが多数収容所に送られ、殺された
一方、魔力を持ったために若い４５歳ほどのマルテは２６０年ごろ、セルヴァートで北逃

してきたアフレインと再会し子を設ける。子は双子で男はϒeleϽ、女は->elc
->elcは-ᗰ◡cɔΛを継ぎ、ϒaleϽは-ᗰ>-ᒧϽを継いだ

２９０年：ここまで大虐殺を逃れながら信者を増やしていたアルティスは、マルテが南下しアルバに入る。魔法で軍をつぶしてファウスに挑むが共倒れする。後継者には息子のアルファウスがつくが、すぐに->elcがマルテの後継者につく。また-I<-aᒧはアルバに入ったアフレインを殺し、ϒaleϽが後を継いだ。->elc，ϒaleϽ，-I<-aᒧはいずれも魔導師だったが力が均衡していたので、手が出せなかった。-I<-aᒧはアルティスの虐殺停止要求を 295 年に飲み同時に選挙を行い、アルティス教にも議席を取らせた。そしてミナレットは３００年にアルティスと停戦した

"lecᓴᓇ"

前期

３００年：アルファウスがアルバ１７世を廃して王制を無血開城で閉じた。王補佐は-ᑕᑦeᓯという名に変わり１番上になった。アメリとユレットは双子でありながら後継者がないことを悩んで仕方なしに子を作った。他に魔導師がいないためである。するとユーマの一族と同じ理屈で、生まれてきた息子は若干力を失っていた。それでも強力な魔導師として生まれた彼はミロクと名づけられた（生まれた子が近親相姦による事実を隠す為と、おまじないのつもりで、彼らはミロクにᓴᓇᑦc-の姓を与えて家の名から追い出した)。社会は政教分離がなく、アルティスとミナレットが高官を独占していた。高官になったアルティスは徐々に初志を忘れ、堕落していった

３１０年：選挙問題が発生した。選挙の不正が目立ち、結局は選挙の前の裏抗争で勝負が決まるという事態になっていた。そしてミナレットとアルティスは再度対立し、-lᐸ-ᓇᑕがᓴᓇleᑦ,->elcと戦った。しかし３人共死に、残ったのはミロクだけになった。指導者を失い、、幼いミロクしかいない状態で高官の汚職は更に悪化した
社会は十分発達し、強力な軍事兵器もでき、衛星もロケットも飛ばせるようになった
政治は腐敗し、貧富の差は広がった
ミロクは召喚省に小さな政党、敬虔なヴァルテからなる
clᐳcᓯᓐᑐを立てた。だがその頃には既にアルティスの政党もミナレットの政党も同じようなもので、アルティスなのに実際は信心など無く、退廃しきっていた
アルティス・ミナレットはただの別の政党というだけの違いしかなくなっていた
環境問題や様々な社会問題が浮上する中で社会は混乱を極めていった

中期

３２０年：ミロクがミロク革命を行う

３１５年ごろ、与党であったleV-leΛの政治腐敗がひどく、更にミナレットであるにも関わらずV-lᑦeがleV-leΛに入った為、敬虔なアルティス教徒の怒りを買った。そして何より政治腐

敗によって国民の反leV-leΛ感情が起こり、-l-cV,-l>cΛ-,->cΛ-l連立政権が対立。ところがこれも全く同じ腐敗体制だったため、国民は少数でしかなかったいイルミロクに期待を高めるようになる
そして３２０年の選挙でイルミロクは与党となり、一夜にして軍を使って野党幹部を殺し、他国へすぐさま攻め入り、暗殺を行った。中枢幹部を失って混乱しているところにミロクは大軍と兵器をつきつけてアルバのみならず諸国を支配し、世界各国のイルミロクを与党につけさせた。そして与党に力を蓄えさせ、邪魔者を排他したミロクはすばやく同年末に選挙制を廃止。独裁政権を開始

その後、ミロクは周辺諸国を抑えて連合国に加盟するように脅迫。軍事力に逆らえない小国が味方につくと、次第に世界中をとりこんでいった。もちろん、反対勢力も出たがミロクはこれを徹底的につぶした
そしてミロクはアルティス教を国の中枢とする社会を作り、それを世界にまでのばした。勿論侵略は神に従ってしないが、支配という間接的な形で世界をアルバの傘下においた。こうしてアルティスは全盛を極め、世界が再び、今度はアルティスによって一つになった

３３０年：ミロクはイグレスタ体制を崩壊させ（共産主義の滅亡）、南半球も統一して世界をアルティスで一つにした

後期

３５０年：ミロクは娘のアルテナ（１０歳）を後継者にした
そしてここからレイユ後期が始まる
アルテナはミロクが禁じたことを緩和することで徐々に社会を別の形で安定させていった。

３６７年：アルタレスのフェンゼル＝アルサールがアルテナに造反。部下のハイン＝アルテームスが粛清し、アルタレスとなる

３７０年：ミロクはアルテナと交わり、アリシアを作る
３８０年：ミロク死亡。アルテナの治世が全盛に。人は抑圧から次第に開放されたがその

時には既に敬虔な信者の国家になっていた

４００年：アルテナ死亡。３０歳のアリシアが若きアステルとなる

"cΛScΛ"

メル４００年：アリシア＝ユティアの治世の下で人はランティスの転生を待ち切った

ランティスが世界各国に転生し、アリシアは彼らを探させた。そして偽者を見分け、４１０年、真の転生者を見つける

４１０年：アリシアは転生者をI-ΛC-Jと名付け。各国のアステルに配置させるべく試練を与えた

４２１年：そしてI-ΛC-Jは試練を終え、-JCeMとなって世を治めた

"-ʔɔl-ɔ政治"

神は力が強大だった為、国や政治の概念が希薄だった
ʎ-V-ɔで一応-ʎℓeɔとlʿeʎが王位についたものの、あくまでそれは尤も強く指導力のある神というだけの話である
国という概念もさることながら、政治という概念は特に無かった
政治を作り出したのは数が増えて、しかも力を失った人間である。とはいえʎ-V-ɔまでの人間は数が少なくまだ神に近かった。-Zɣeʎが起こったときも同様で、弱い神が互いに戦争をしたようなものであった。そこにいたのは指導者であって、王であった。だがそこに政治は無かった
治政が初めて生まれたのはɔelʾelからである。ただ、-Zɣeʎ、ʔ-ʔɔにも政治に近いものはあった。だがそれはシステマティックではなく、王を頂点とし、その下に数々の能力者が侍っていたに過ぎない。能力者には建築士や魔導師などがいたが、省庁があったわけではない。王の周りに有力者が集まるだけの組織で、人民の統制力も弱く、人民も国の意識が少なかった。政治下にあるという意識は殆どなかった

ɔelʾelになるとアルバ７世がアルバでそれまでと同じように有力者を集めたが、仕事の分担をして合理化する為に省庁を作り、王補佐をおいた
各国はそのシステム事態はイグレスタの中でも同じであった
メル３００年にアルファウスが王政を廃止し、アステルになるとɔelʾelの政治圏から王が消えて王補佐がアステルにかわった。しかし、その下の省庁はかわらなかっら。
ミナレットが民主主義を唱えても事務省の下に行政・立法・司法がいるのはかわらなかった
つまり三権分立は一度もなされなかったことになる。各省や王が決めたことを行うのが行政であり、立法は王への提案権しかなく、司法も独立していなかった。そこに三権分立はなかったし、実現されなかった
このスタンスはミロク以降も変わらない
ミロクの時代、ミロクは選挙を廃止し、独裁政権を作った。しかし、彼自身の地位は-ɔʔeʎで、王ではなかったし、王補佐でもまた別の名の役でもなかった。ミロクは省庁のシステムも変えず６省を自分の信頼するlccʿ-にまかせた

リーファ隊員は１人１つの省をうけもつのではなく、部分的に兼任しあった。更に軍については弥勒、ハネス、アルカス、アルソンなど大人数で臨んでいた。省庁の高官にはイルミロクの党員が選ばれたが実質lccく-の下の地位であった
アルテナもアリシアもこのシステムを崩さずにアステルとなった為、アルバの政治システムは結局２０００年程殆ど「かわらなかったといえる。尤も、役人の選び方は時代によって様々だし同じ省でも時代によって権威の差はあった。>el２００年ごろの召喚省は無力だったが、ノel>elの時代は絶大であった
それに立法にしても王の権威が弱い次代は立法は提案とは名ばかりで実際は王は認可するだけのおかざりだったこともある。ただ、一貫して政治のシステムはアルバ１世の頃から世界的に殆ど変わっていないといえる

"-ʔɔl-ノの学問"

神は多能であった為、文化も学問のレベルも低かった。必要がなかった為である。尤も、神にもユルグのような賢者がいるし神自体の知能は非常に高い。しかし必要性がないので学問は発達しなかった。
-Zɣeμの時は魔法学が発達した。召喚学も発達した。これはʔ-ʔɔで全盛を迎える。ʔ-ʔɔは特にアルシアの１１魔将がでるなどして特に魔法学が発達した。
この辺りが学問の始まりといえるだろう
そもそも人は既に神から地方税と天文学を-Zɣeμの時代に伝えられていたため、これらは栄えていた。つまり、人の学問は神から与えられたものである
また、-Zɣeμの時代に一人の少女が生まれた。その名はナユ。アルバの人で-Zɣeμの時代、魔法学を志して勉学に励んでいたが、体が弱く、１４歳で死んでしまった。最後まで本を手放さなかった少女をみてユルグは嘆きあわれんだ。そして手持ちの本を体の上にのせて命を吹き込んだ。つまり、離れそうなセレスを引き戻した。これによってナユは生き返り、しかも永遠の命を手に入れた。しかも老いることがない１４歳の頭の為、何でもスポンジのように吸収することができ、頭も柔軟だった
ナユはその後勉学にいそしみ、魔法学を大成。それを元に-lノc-の１１魔将が集まり、その学を更に昇華させた

ナユはその前に-Zϒeμにおいて数学や建築学を作り、建築士などに伝えた。カコとアズゲルでは傷ついた者をいやす魔法を開発、しかし治せる程数と程度が限定される為、医学を研究、そしてJel>elの頃には成就させ、国に病院を開かせた。また農業についても研究史、収穫高をあげた。牧畜の合理化も進めた、国に水道をひかせ、道も作らせた
Jel>elで人が弱くなると民衆の為に武具の開発をした。諸国の文化や風土の違いを研究し、貿易の必要性をとき、活発化させる。その際為替が不便であると痛感、高官のミルギルが同じ悩みを持っていた為、神を通しての統一貨幣案を出し、経済のシステムにも貢献、更に、アルバ１世の時は政治システムを考案し、６省制を考えて提案した。イムル６００ごろには農牧技術を更に高め、人口が増加に貢献。その間にも徐々に数学、物理化学などを発展させていった。リディアの頃には物理を大成し、化学も大成した。錬金を志した結果、化学の様々な知を得るようになった
リディアに入って-ℓelの出現によって怪我人が増えると、小さな傷から死んでしまう患者を見てナユは苦しみ、抗生剤を発見し換気や清潔を心がけるようになった
糞便の処理を肥として使うのを止め、寄生虫を駆除
更に糞便を処理するシステムを作り、道にばらまかないようにさせ、ペストなどの伝染病を一早く防いだ
水洗便所の原型もこの時に作った
農作物が豊かになると食学にも手を出し、食材と栄養の関係を一早く知り、栄養学に着手。同時に食事のメニューも考案
１６００ごろにセレンがアルカをやりだすと、顧問となって言語学を始める。セレンと共に言語学、語学、文化人類学、人工言語学、人工文化学などの人文科学を大成
リュウの顧問にもなり、新兵器の開発や新薬の開発、そしてコンピュータを実現。ナディアには産業革命を起こして、鉄道を敷き、武器を作り、やがてミサイルやロケットまで作ることになった
こうしてナユはすべての学問の祖となった。ナユは様々な学問を成就させたが、それを応用するのは常に他の人間だった。ナユがミサイルを作ったわけではない。ナユが兵器で殺したわけではない。ただそれを応用して使ったのは別人である
技術が進歩しすぎ、宇宙にまでいくようになった人類。環境破壊など様々な問題が山積みになった。ナユの恩賜で生きたものもいれば死んだものもいる
全ては時の為政者や技術者が、社会がナユの頭をどう使うかにかかっていた

ミロクはいきすぎた科学技術を押さえ、自然にかえるべく、あえて生活を不便にした。その間、ナユはただひたすら勉学に努めた。だがミロクはそれを環境保全や社会の安定に専ら使っていった
それはアルテナ、アリシアにしても同じことである

"食文化"

-Zϒeμに∪c<eμが入り、アルバに食文化が始まった。始めは神の紹介した食物と<-ϵeμから流入した食物を食べていたが、やがて前者がメインになった
産業は農耕と牧畜で、主に小麦、牛などを作っていた。酪農も盛んだった。これはその後も一切かかわっていない。ただ-Zϒeμの８０００年間はまだ国としての形が整ってないので分業はあまり進んでいなかった。誰かがデスクワークして稼いだ金でパンを買うということはあまりなかった。１次産業に皆がたずさわるような形だった

-Zϒeμで世界に遠征した結果、メテ、インサールの香辛料、ルティアの食物など（米もこの時に入るが、輸入量が少ないので主食にならず）がアルバに入った。-Zϒeμで既に入っていた香辛料は肉の保存に重宝されたがアルバの風土だと育ちにくい為、∪c<eμにとってインサールから>-leʔを追い出すことはかなりの大きな意味があった

８０００年の-Zϒeμが終わり、ʔ-ʔɔになるとアルバの食がメインで、メテ、インサール、の食がそれにかわり、ルティアのものも加わった。主に魔導師の輸送による貿易が行われ公益技術はあまり進歩しなかった。行軍の為の道は作られたが大抵のものは魔導師が運ぶ。腐るものは氷の魔法で冷やして運ぶ。貿易はこうして行われた。この時の問題は貨幣が統一されてないので為替があったり、貨幣が通用しなかったりで面倒だったことである。∪el>elになると統一なのでこの点は楽になり、売買がスピーディになった

一方、調理法は専ら焼くが多かった。人は大抵魔法で火を起こして肉などを焼いたパンを焼くオーブンも種火は自分の魔法ということが多かった。しかし弱体化するにつれて魔法が使えない人の為に火起こしの道具が作られるようになった

アルバは比較的降水に恵まれ、土も石灰が少ないので炭酸が少なく、硬度も低めである
ただ、軟水と硬水の間くらいなのでおひさしなどでもないわけではないものの、やはり煮る塩合はシチューなどが流行った

ᒍel>elで魔導師が減ったことにより馬などに頼った陸路の易益を実施。くさるものは入りにくくなった。大平の世だった為、茶などの趣向品を楽しむことができるようになった。

ᑊcℓc-の時代になると陸路はかなり整い低いレベルではあるが造船技術もできていた。飛べないものにとっての催促移動は馬であった

ᐱ-ℓc-になって植民化が進むと、世界中の食物が集まってきた。
ᐸ-ᑉeᑊを取り戻した為、コーヒーやチョコレートやココアなどが作られた。しかしコーヒーは茶が浸透していたアルバでは好まれなかった
冷戦になってその後和平が訪れると強国が互いの植民地の物を輸出入しだした
ᑐeᐯe-からはじゃがいもなどがルティアにいった。寒いルティア北部でもこれは育った為、ルティア北部の人口が急に増えた。そのじゃがいもはインサールを経て陸路でアルバへ。人口を増やす貴重なタンパク源として入ってきたが比較的豊かだったアルバにとって根っこなど食べるものではなかった
しかし、イネアートやケートイアでも流行って国力が増すと、アルバも国民にこれを食べさせた。意外とうまいことを知った民はこれをさっそく取り入れた。国はᒍacを作らせた。これによって収容人口が増加したが、種の病気でᒍacが枯れ始めた。そこにナユが現れ、種の病気を解決。その方法を早速世界中にばらまいた
ᒍacは寒いところでもできる貴重なタンパク源で、これがイグレスタを北国で栄えさせた原因の一つにもなった

ᒐcᐳᐱになるとシオンは世界を回って様々な料理、食材を取り入れたり、紹介したりした。ミナレットもまた同様である
lecᓴᓇになるとグローバル化も手伝って、世界の中で同じものが食べられる時代になった
しかし飽食を注意するミロクによって土着の料理食材がみなおされるようになった
この傾向はその後のcᐱᕮcᐱまで続いた

"服飾"

神はテーベを主に着ていた。或いは裸の神も多い。防寒の必要がないからである。しｋし、テュアが裸を見せないのは高貴だからといっているように、裸を恥ずかしいと思う神がいることも確かである。裸の神は多い。。服を作り出したのは主に人間である

ﾊ-V-ﾉの頃は神の真似をしてテーベやそれを短く切ったものを着ていた。ｰeVe-などは暑いからである

-Zｰeﾊになると魔力の弱いものは鎧などを着た（-Zｰeﾊで鋳造できるようになったので宝飾品も生まれ、タリスマンとして戦でも活躍した。エーステも作られた）

鎧の下着として体にピッチリ合うシャツが作られた。また、神が着ていたもので人もそれにならってテーベばかりを着た。貧しい者というか高貴でないものは比較的麻などをきて、手間のかかる服はきれなかった。ｰ-ｰｰになると上はシャツ、下はズボンかスカートというのが民の格好になり、テーベは召喚士や魔導士がきるようになり戦士は身軽な平民の服の上に鎧を着た

ﾉelｰelは大平で世界各地にあった民族衣装ができあがっていた

ﾊcℓc-になっても同じ

ﾊ-ℓc-では植民地の風土に合わせた服が現地人から取り入れられたが、本国では流行らなかった。ﾚcｰﾊでは布教の為、まず大国の風土に合わせた布教服が作られた。南方が多かったのでラーサやルフィのような涼しい服、はてはﾉeﾊc-などcﾊﾉ--lの服から学ばれた布教服が作られた。幻字を象ったエーステも再燃した

次第にアルティスが追いやられ、北へ上がっていくにつれて布教の遅れを北方にあわせた

-lﾉeﾊc-などの服が作られていった

lecｷ｡になると-ﾊ^cﾉの世の中となった為、布教服が民の平服になり、それまでのファッションをくつがえした

lecｷ｡の頃は資本主義経済によるアパレル産業が強く、様々なファッションが毎年毎年流行っては消えていった。服は耐久度が弱く、装飾的な意味が大きかった。ミロクはこれを資源の無駄、悪と規定。また富貴の乱れや信仰の妨げとなるとして、廃棄。かわりにアルティスの服を着させた。アルバの風土に合わせた改良は許したが度を越えたファッション性のあるものは禁止した。アルテナになるとそれが緩和され、ファッション性も許されたが資源の無駄を省く方針は変わらず、耐久度の強い服や飾り気のないものが好まれた

∪el>elでは王や高官は権威を高める為にきらびやかなドレスや服を着た。ロココ調な服はしに時代に見られる

∧-ℓc-,∪c>∧でも金持ちは権威を見せる為に高いブランド制のものを着た

"美術"

芸術、美術は>-le-が統べた
>-le-その手法を-Zγeμの時代にナユに伝えた。ナユはその教えを受けて神や人の姿、自然や物の姿の描き方を大成させ、人間に広めた。-Zγeμの時代はしかし戦乱が多かった為、人は芸術を楽しむ余裕がなかった。ʔ-ʔɔも同様であったが、王は芸術を好んだ（肖像画などが残される）ᒍel>elになると大平になった為、絵画や彫刻が広まった。μcℓc-になると戦乱の世で、少し衰えた
その後Λ-ℓc-になると植民地からの物質で顔料が豊富にとれ、しかも種族も多かった。今まで出せなかった色が出せるようになり、ナユはそれを使った方法を広めた
lecϟになるとＣＧや写真の発達によって単体の絵は少なくなり、コンピュータ技術との組み合わせが行われることが増えた
ミロクの後はアルティスの世の為、宗教画が増えた。それはcΛScΛも続いた

マレアがナユに美術を伝えた時、ナユは色んなものを描いたが、中でも神の絵は尤も価値があった。神とのつながりから美術は召喚省の下に管理されるようになった。それはᒍel>el，μcℓc-と続いたがΛ-ℓc-，lecϟになると神との連携がなくなったのでμcℓc-あたりから徐々に神の絵よりも人間を描いた絵が流行った
また、描方も写実的なものから抽象的、光を捉えた印象派的なものが生まれた。しかし召喚省が毎年行う展覧会では民の多くが印象派までしか認めず象徴主義などの何を書いているのかわからないパっと見下手なものは好まれず、ただただその時代に合わせた出来事や人を上手く写実的に、或いは印象的に描いたものが人気だった。この環境でキュビズムのような絵は全く認められず、展覧以前であった
アトラスはただ写実的かせいぜい印象的なものを好み、美術家もそれに合わせた
lecϟになって、写真が高度になり、ＣＧも発達すると絵は上手いウソをつくことで生き残るようになった。写真にはない要素をかきとめるのは絵の利点である。しかしそれもＣＧが代用できるようになり廃れた
その後、ミロク革命が起こると美術は神をうつしとったような写実的なものが好まれた

つまりアトラスでは写実的なものかせいぜい印象派のルノワール程度の絵しか好まれず、

力を持てなかった。画材が変わっても同じである。象徴主義やキュビズムになりそうな絵があっても単にそれは下手な絵として捨てられた。民は常に写真でとったような、生き写しのような或いは写真以上の綺麗なものが見たかっただけで、そこに哲学の介入を許さなかった。この基本的姿勢をアトラスは崩さなかった為、時の美術家たちはあくまで写真のように自分たちの時代や人の様子を或いは神の姿や自然を描いてきた。おかげで刻々と時代が流れて行く様が絵を並べるだけでビデオのようにわかるようになった。つまりアトラスの絵はそのまま歴史写真になっているということである

"音楽"

-ZγeΛにナユに>eleJが曲を伝えた

>eleJは-Λ>cV-にのっとって１２音階を作った。ナユはそれを見習い、音楽を研究したが、JeI>eIまでは音楽はあまり流行らなかった

きちんと音楽として好んで聞かれるようになったのはJeI>eIで、その時ナユは世界の楽器を集めて改良し、更に音楽知識を人に伝えた。ナユは更に歌の声楽を<I-<-とあわせて大成させ、人に広めた。神の賛美歌が多かった為、音楽は召喚省の管理となった。ΛcℓC-ごろからそれは廃れだしたが、ΛcℓC-末期には再燃した。しかし、Λ-ℓC-でまた廃れ、lecϒ₈にはメディアの進歩や通信技術の向上によって世界中の音楽がフュージョンしていった

しかし革命の後は各々の国の民俗音楽が重視され、賛美歌もまた再燃した

"文学"

-Zϒeᒣにアルカが伝えられ、ナユは書くことと製本技術をあみ出した。神から紙を伝えられていたのですぐに開発できた。ナユは神から与えられた大切なアルカを大切に使おうとして、言葉の使い方をまとめた文法書にあたるものを出した。また文章の中良悪を独善的に決め、その判断を世に広め、良い文をかくように広めた

また、ジャンルについても意味のあるものとないものに分け、あるものを書くように広めた。ナユは神話、歴史書、地理、科学などに関する文献を良しとしてこれを広めた。作り話、小説や宗教の類は人を惑わすとして悪とした。また民には自史として日記をを書く事を勧め、文になれるようにした

この傾向はʔ-ʔɔも同じであり、基本的にlecϟaを除いてcΛScΛまであまり変わらない。ᒍelᐳelになるとleᑦcᒍなどの体験記や伝え語りなどがあみ出され、面白いものがいくつか集められた

ᒣcℓc-になるとアシェットなどの話を中心にした話、ニュース的な文章が増えた。Λ-ℓc-になるとアシェットは語り継がれる話となり、伝記と化した。このころはアシェット、アリディアが一番の話題だった。植民化が進むと世界の風土の伝記が流行った。娯楽本はまだ少なく、そういった伝記が娯楽だった。Λ-ℓc-〜lecϟaになってメディアが普及すると小説や娯楽本がでまわり、収集がつかなくなった

ネットの普及でアルカは乱れ、汚い文章がめだった。ブログをそのまま出版するような本も出てきて、人は娯楽本ばかり読んだ

そばらくするとメディアの発達で本そのものが売れなくなり、殆どの情報が電子化した

しかしミロクが革命を起こし、本を復興させた。下らない情報を全て弾圧しナユが述べたような本を良しとし、それ以外を弾圧した

ミロクに逆らう政治本の出版も弾圧した。電子情報は便利なものだけ残してツール化し、本を生き残らせた。辞書などの学術書は国が買いとって誰でも只で見れるようにした

娯楽本は弾圧され、出版でもなかった。ネットにのせるのも罪になったアルテナになると緩和されたがそれでも意味のない下らない本は出版でもなかった

これはアリシアも同じである

結局、アトラスの文学は、神などの伝記に始まりそれに終わるものであった。

lecϟa、ミロク以降は特にそうで、アルティスに関する文献が最重要視され、アルティス以

前の人と神の関わりも重視された。leᑕcᒍの話などが集められ変えられ子供から大人まで読むべき本とされた。-ᑕcclcや-ᑭV-ᐱᑕなどが作られた
ミロクではアルティス文献の次の権威は学術書や報道記述でそれ以外は無価値、害悪として弾圧した
小説は娯楽の扱いだし殆ど発展しなかった。またアトラスではナユが特に力を入れなかった為詩も発達しなかった。ナユはあるべき正しい文化は簡潔で誤解なくわかりやすく人に伝えるものであると述べた為、抽象的な表現は嫌われたどころかバカの体とされた。よって地球のような詩は病人かバカの産物とされ、散文をリズミカルに整えた短いものが詩とされた。故に詩は散文に近く表現技法も無駄。情報の無駄合理性の無駄として発達しなかった。アトラスではいかにてっとりばやくわかりやすく誤解なくがモットーなのでそれに背いた抽象表現や技巧はただのバカでしかない

"名前と性差別"

ᒧel>el、１４００～１５００の頃に人は名字を持ち始めた。ᒣcℓc-以降の名前の出来方はファーストネームが始めにきて、最後にラストネーム（名字）がくる。そしてその間にファーストネームの代理となる別の名が入る。これは何か特別なことがあったとして与えられる名で、偉人ほど名が長い傾向にある

リディア＝サプリ＝ルシーラ＝テオ＝ルティアで間の３つは全てリディアのファーストネームの代理である。だがこれは全て称号のようなもので、それを使って呼ぶことは実際はない。尚、新しい名が入ると名字の一つ前に加わる。もしリディアならテオの後に入る

一方、ᒧel>el以前はどうだったか、-Zϒeᒣやᑋ-ᑋɔでは男は戦士で女は魔導師であることが多かった。そこで男女の力は対等で差別はなかった。娘が生まれると親は魔導師を願った。魔力は魔導師の母からうけつがれると思っていたので娘には母の名をつけた。たとえばリディアがカコの人間だとしたらまずファーストネームにリディアがきて、次にラストネームは母親の名のリーザになる。このラストネームは名字でないことに注意。つまりリディアはリディア＝リーザとなり、リーザの娘のリディアということになる。リーザが高名な魔導師なほどリディアに期待が集まる

逆に息子の場合はラストネームが父の名になる

この規則は神でも同じで、たとえばアルデスならアルデス＝ティクノになり妹のフェルデンはフェルデン＝ポエンとなる。名字ではないので兄弟間で異なる

尚、親なしは自動でファーストしかもたないことになるし、逆に高貴なほど出自が大事なのでもう片方の親も最後に足す。つまり」リディア＝リーザ＝ユーアとかアルデス＝ティクノ＝ポエンとかフェルデン＝ポエン＝ティクノとなる

結局ファースト以外は単に出自を表わすだけなので一々言及しないことが多い。辞書でもアルデスはアルデスと書くことが普通になっている

ところがᒧel>elになって魔力が弱まると女の権威は落ち、家を守れという扱いに替わっていった

女は男の人形と化し、従うべきものになった。その結果あの動きにくくハデなロココ調の服などが流行らされた。女もいい男に養ってもらうため男のそういう好みに合わせて動きにくいドレスのような服を着たし、それが有閑の証として却って高貴な女にはステータス

シンボルとして好まれた

カコまではルーキーテでさえ、動きやすい魔導師の服をきていたのにJel>elはハデな非機能的な服が作られた。雅で美しい反面、それは男女差別の証でもあった。リディアになるとランティスの女が絶大な魔力や力をもっていたために衆人にも女の台頭が広まり、男女平等化していった。リディアが終わって、ナディアになるとまた女の地位が下がったが、シオンになるとシオンが女だったことで少し向上した。しかしレイユになると信仰が薄れ、女の地位が下がった。しかし産業形態が現代化したせいで女が養ってもらう必要はなくなり、ウーマンリブの動きが活発化した。極端な平等化やそれをこえて男女平等になり逆の対場で社会が混乱した

その後ミロクが革命をするとアルティスの教えに従って撤廃した。男女区別をし、平等ではあるが異なった存在として男女を規定。差別でなく区別をした

"日常的な数学記号"

@数：1,/,ｒ･････を使う

未知数：(,ｒ,し,ノを使う　　}幻字表の上から下から

定数：Z,S,O,Iを使う（規定の定数は-ﾊｒ体で書く。ﾊｰ半径　ﾊﾊ直径）}か進む方向の違い

@＋と－：プラスはｵｏｒでV記号。マイナスはΛ。大きさは小さい

@演算記号（四則）

四則はく-ｒ,くcｒ,くｏｒ,くeｒを略して、-,c,ｏ,eとする

＋：１＋３＝４　　1 - ｒ=ｍ　　ｒｏ - Vc ｒ-ｒ V-

－：５－３＝２　　ｆ c ｒ=/　　↓　〔e(〕

×：３×４＝１２　　ｒ ｏ ｍ=1/　　く-ｒ と　↓

÷：１２÷３＝４　　1/ eｒ=ｍ　読んでも良い　＝はe(でもよい

↓　↓

↓　未知数のときは(ｏ ｒでなく(ｒとしてよい

余りはノｏS,　1ｒ e ｍ = ｒ ノｏS 1

@不等号

＝：イコールは下が長い⇒=、 - （古アルカのℓe）にｒ-ｒの-がついたもの

≒：ニアイコール

≠：ノットイコールは

＞：だいなりは　１＞０⇒1×0　　ｒｏ ｒｏlｒ ａ

＜：∝　　３＜５⇒ｒ∝ｆ　　Vc ｒelｒ le

≦≧：小なりイコールと大なりイコール⇒

３ｘ⇒ﾚ　　Vc ｅ

３（ｘ＋ｙ）⇒ﾚ(ｅ－ｅ)　Vc ｅﾉｅ ｅ－ｅｅ ｅﾉｅ

[ｅ]　　[ａ]

累乗：x^{n}⇒ｅ　アルカでも右肩におく

読みはｅ Zｏ＞ ＜ｏ　guared cubed to the nth power などではない全て一括

2^{8}＝２５６⇒ﾉ=ﾉﾟﾟ

ｅ－ ｅ＜ｏ ｅ ｅ－ｌｅｅｃ

$(x^{m})^{n}$ ⇒ $(ｅ^{Z})^{S}$　　ｅｅ ｅ Zｏ＞＜ｏ ａ Sｏ＜ｏ

ルート：e>ｏ（源）という、累乗根は「累乗するとその数になる数」のことで。２乗して９になるのは＋３と－３。つまり±は９の源となる

従って±３は２乗時９の源となる。そこで９の源、e>ｏ e LをeLとかく。eはe>ｏである。上肩にかく

３乗根の場合はVce>ｏ e ﾉﾟなどといい　ﾚe ﾉﾟ=ﾉﾚという

L^{e}=ﾉﾚ　e>ｏ(e)ｌｏ ｅ ﾟｏﾟｅ Vc

ﾉﾟ^{ﾚe}=Vﾚ　Vce>ｏ(e)ｅ－ｏ ｅ(ﾟｏﾟ)Vc

分数：＜ａｌ、分子＜ｅｌ、分母＜ｏｌ

日本語式と同じで分母 - 分子の順で読む　　ﾚ（帯分数）

と同じく、横棒を引いて下が分母になる　　↓

ａと読む　　Vc ｏ ｅ－ ａ ｏ

ｅ－ ａ ｏ=＜ｅ＜

少数：(ﾉｏVｏ)　小数部(ﾟ--ｌ)

↓

２，３４⇒ﾉ,ﾚ　　ｅ－ ｃｅ Vc V-

↑　　↓

整数部(ﾟｃ-ｌ)　　ツンクを使う。ピリオドやカンマではない。しかし読みはツンクも点の一種なのでｃｅという

循環小数

Vc aΛ ʔɔ eʕ a cΛʕ Vc ʕeɔ>

絶対値（ᒧɔV-）　｜a｜⇒Ź　　ᒧɔV-(e) Zɔ>

｜３｜＝±３　　ź=V̀>　　ᒧɔV- Vc eʕ ɘɔʔɘeʔ Vc

ʕelと読むʕ-ℓeᒧɘ

↓

対比⇒　：マークを使って区切とする。地球と同じ

１：３⇒1:ʔ ʔɔ ʕel Vc

１：３＝２：６⇒1:ʔ=✓:ʕ　ʔɔ ʕel Vc eʕ ʕ- ʕel ʔc

角度：１３０°は1ʔ0 ʕ0ʔ>なので、　と上肩に乗せて書く

角、　∠A⇒ᒧlɔ ʕ

多角形、△ＡＢＣ⇒ʔ-ᒧ[Vcᒧlɔ]　ʕʔᒧ

その他幾何

| || m⇒ʕ eʔΛ ʔ

　|　m ⇒ʕ ɔeʔΛ ʔ　　垂直はh-ᒧ、交差はɔʔΛ

△ＡＢＣ≡△ＤＥＦ⇒ʔ-ᒧ ʕʔ∪ ʔ-ʔ>ɔ ʔ-ᒧ ᒧΛV

　　合同

　　∽

　　相似ならʔcʔ>ɔになるだけ

階乗(Λ-<<ɔʔ)

x ！⇒^(　　4²がの (-<ɔ)だからそれと同じ語順

4 ！⇒^の=の,ｒ,ノ,1=ノの

V- ∧-<<ɔ) e(V- ɔ Vc ɔ (- ɔ)ɔ e((-V-

パイ（Π）⇒>el>-を記号化した「　」　丸と>(>cﾉ)を足したもの

>eノ e >e> e(ノ○　　[ ]

シグマ⇒)ɔｵとかく

$\sum_{k=1}^{n} k$　　)ɔｵ (cl 1 -l Z

↓

(について1からZまで(＋)を総和する

$\sum_{k=1}^{10} (k+1)$　　)ɔｵ((＋)) cl 1 -l Z (ɔ((

↓

タテガキ

)ɔｵ (=ｹｹ　ｶﾊｵ ℓ

ℓ=1　　ℓ=1でも可

極限⇒ᔕ

lim は ᔕ

lim x ⇒ᔕ-Z (-l Z

x→a　↓

ᔕ-Z　　ᔕも可

(→Z　　(→Z

積分⇒∫ ᵇₐ ⇒)ɔｵノ　　)ɔｵノ cl Zɔ> -l Sɔ)

)ɔｵノ　　Z

単位：>el<c　⇒℃　　平方メルフィ⇒℃

>el℃-　⇒℃　　↓

>el-　⇒ﾉ　　平方センチメルフィ（ｸﾏﾉ ℃ ｾﾟ）

パーセント ɔ ʔ ʃ ɣ -l　⇒３％＝ɤ ʰɣ eᵝ ɤ ʰ

パーミル　 ɔ ʔ ʃ ʕ ɔl　⇒３パーミル＝ɤ ʰℓ

100 ㎞／ｈ　⇒時速１００キロメルフィ(ʕ ə ʃ) (ℓel) 100 ʕ ɔl>el<c ɔ ʔ ʃ <e-

ʔ ɔ ʃ ɔ　　［ʔ ɔ <e-］

座標と関数

ｙ＝２ｘ＋１⇒ʔ=ʃʕ - 1

↓

ʔ=ʕ́ c 1　　ʔ=(ʕ - 1) (ʕ c 1)

>cʌ　ʕ=ʌ̌1

↓

ナンバー

α１，α２　⇒Z₁.Zʃ（右下に書く）　Zɔ> ʔ ɔ,Zɔ> ʕ-と読む。そのまま序数となる